

毛髪ミネラル結果報告

井本吉直 様の測定結果

測定NO 80214 性別 男性
受付日 H27.10.17 年齢 54 才
測定日 H27.10.17
測定装置 島津ICP質量分析装置ICPM-8500(ICPMS)
測定値単位は(PPB)

担当機関ID D30168
イモト歯科医院
医師 井本吉直
測定者ID MG0001
分析コード 5-5-5-5-5
006464

ミネラル測定は、身体ミネラルバランスやその過不足を知る事が出来ます。
ご自身の判断、若しくは担当機関や、担当医師のアドバイスで身体健康管理のパロメーターにして下さい。

分類	元素名	必須ミネラル測定結果							平均参考値		
		欠乏	欠乏傾向	平均参考値	過剰傾向	過剰	前々回測定値	前回測定値			
Na	ナトリウム						137,509.76	54,908.15	244,789.45	75,126 ~ 300,506	12
K	カリウム						148,571.75	1,774.46	32,606.61	25,344 ~ 101,374	13
Mg	マグネシウム						15,424.12	59,775.14	123,747.48	48,875 ~ 195,501	14
Ca	カルシウム						464,596.97	1,694,965.58	2,421,521.01	832,023 ~ 3,328,093	15
Cr	クロム						25.69	588.82	1,233.81	785 ~ 3,140	16
Mo	モリブデン						198.53	18.38	0.00	32 ~ 127	17
Mn	マンガン						1,452.10	64.43	96.98	131 ~ 526	18
Fe	鉄						418.75	0.00	1,112.38	6,204 ~ 24,817	19
Cu	銅						19,142.18	44,413.81	52,318.91	12,140 ~ 48,561	20
Zn	亜鉛						128,829.38	213,362.98	72,900.84	121,763 ~ 487,053	21
P	リン						112,379.47	205,910.56	131,294.66	158,512 ~ 634,049	22
Se	セレンウム						512.15	430.23	0.00	1,116 ~ 4,464	23

分類	元素名	有害ミネラル測定結果					平均参考値		
		低レベル	中レベル	高レベル	前々回測定値	前回測定値			
Be	ベリリウム				0.00	0.00	0.00	475 ~ 2,375	6
Cd	カドミウム				28.23	9.63	0.00	19 ~ 95	7
Hg	水銀				6,416.75	27,141.38	7,101.68	1,026 ~ 5,130	8
Al	アルミニウム				6,353.33	4,552.15	6,625.04	2,974 ~ 14,870	9
Pb	鉛				699.99	962.48	960.59	195 ~ 975	10
As	ヒ素				57.50	102.91	0.00	15 ~ 75	11

◆印は、前々回、▲印は、前回、★印は、前々回と前回と同じレベルです。
平均参考値の設定は当分析センターの測定者(性別・年齢により分類される)の平均測定値です。
測定結果の0.00は測定限界以下を示しますが0ではありません。

ガイア分析センター
医師 鈴木善充

井本吉宣 様の毛髪ミネラル測定結果

006464

必須ミネラル欠乏・欠乏傾向元素

		Mo	モリブデン
		Mn	マンガン
		Fe	鉄
		Zn	亜鉛
		P	リン
		Se	セレンウム

欠乏元素数

6

必須ミネラルは、身体の潤滑油の機能を持っています。
各々相関関係を持って体の中で働きます。
そのため、他に多くミネラルがあっても、最小のミネラルにあわせた働きしかしません。
平均参考値まで、この元素を上げるよう食事にご注意下さい。

必須ミネラル過剰傾向元素

		Cu	銅

過剰元素数

1

必須ミネラルの過剰は、体内ミネラルの排出を意味し、ミネラルの過剰摂取を直ちに意味するものではありません。

有害ミネラル高レベル元素

Hg	水銀	高レベルに達しました。 侵入経路＝薬品、食品など うつ、眠気、しびれ、皮膚病等が在ったら医師に相談して下さい。 このレベルの内に排出しましょう。	

高レベル元素数

1

有害ミネラルは、長年に渡り体内に蓄積され身体に変調をきたします。良質の水を常に飲まれることをお奨めします。

1種類の有害ミネラルが高レベルです。侵入経路を遮断して、排出して下さい。排出の方法は食事の改善やデトックスサプリ等の方法が在ります。

食事の改善や医師による治療を行い、3～6ヶ月後再度『毛髪ミネラル測定』を行い排出の成果を確認して下さい。
2回目以降の『毛髪ミネラル測定』の場合、検体（毛髪）は出来るだけ頭皮又は皮膚に近い所から長さ3cm位切ってください。

※有害ミネラルの高レベル数値とは有害の数値を解りやすく10段階に分け表示して在ります

※有害ミネラルの排出には食品やサプリメント、医薬品が有効に働きます。これ等をの働きを手助けするのが『いい水』です。

有害物が無い、ミネラルのバランスがいい水は不要な有害ミネラルを汗や、尿として体外へ排出いたします。

指導内容